

菊のカルテック施肥例

(10アール当り)

時期	方法	資材
本畑の地力作り	なるべく早い時期に投入して耕耘 (特に米ヌカや未熟物を使う場合は2ヶ月以上おく)	ラクトバチルス600g …排水がよく、肥沃な土を作ります。白サビ対策も 堆厩肥 1トン以上 (または有機物。米ヌカを使う場合150~200kg) 硫安 60kg (もし通常の複合肥料なら チッソ成分12kg程度) ※このチッソは有機化・地力化して、ジワジワと効きます。 植付け時の土壌EC: 0.2以下と適当な範囲になります。 ※もし堆厩肥・有機物の量が少ない場合は、NPK三成分の複合肥料を施して、なるべく日数をおくこと。(各成分12kg程度) ※堆肥・有機物を多量に投入し、硫安も多く (~100kg) 施用する方法もあります。植付け迄に20日以上おいてください。
本畑の整地時	整地・ウネ作り時に全面散布、またはウネ上に散布	畑のカルシウム (または カルテックCa粒状) 60kg (前後) ※土壌pHが酸性か、正常~高pH・高ECかで 選択します。 ※もし特に心配な圃で農薬の土壌消毒をした場合は、毒性が抜けた後に米ヌカ等に混ぜて、ラクトバチルスを補ってください。
挿芽床育苗	挿芽床の土の準備	川砂・パーライト等の床に、(1アール当り) 米ヌカ15kg, ラクトバチルス100g を混ぜ1ヶ月以上おくと、苗が充実します。(硫安5kg程度)
	散水時に散布 (灌水・葉面散布)	濃縮酵素液 500倍 …根を強く動かし、新芽の生長を促進します ※収穫後の切り下株から腋芽(冬至芽)を伸ばす時、 母株を摘芯して腋芽を伸ばす時、 挿穂を床に挿芽する時、そして挿芽後1週間ごと…… 上記の時期には濃縮酵素液を薄めて散水し、根から旺盛に生長させます。白サビや土壌病害にも強くなります。 ※もしチッソが強すぎたり、徒長が心配な場合は、 カルテックCa液状 500倍 で、葉を厚くし、苗を充実させます。
植付け時	植付け直後の灌水の時に	濃縮酵素液 500倍液 …活着・初期の根張り促進、 ハガレセンチュウ・土壌病害軽減
[前半]	(植付け後40日、花芽分化期まで) 灌水使用 (灌水は回数少なく、一度の量は多く)	濃縮酵素液 2リットル (~5リットル) 倍率は適宜で灌水土の深層が乾燥しないように タップリ灌水します。その際、15日間隔程で 濃縮酵素液を使用すると、根の力が強くなり、軸太く、葉序が揃い、葉にテリが出て、しかもチッソ過多にしません。葉先が褐変したり、萎れたりする時は 直ちに施用してください。また摘芯をする場合は その日に使用してください。 ※もし葉色が薄く、チッソ不足の時は、 メガデルトン・ネオスリー 800倍 で葉面散布。また葉が黒く広がり、チッソ過多で、黒斑等、葉の病気が多い場合は、 カルテックCa液状 500倍 で葉面散布し、葉を厚く充実させ、生育を引締め、花芽分化に備えます。
追肥	(花芽分化期) ※同時施用可	硫安 20kg (~30kg) ※または アミノ酸液 10リットル 灌水 カルテックCa粒状 (または 畑のカルシウム) 20kg (~30kg)
[後半]	(花芽分化後) 葉面散布	カルテックCa液状 500倍 …開花を揃って進め、花が大きく、持ち良くする。 ※花芽分化後6日で上部の腋芽が伸び始め、摘芽する頃に第1回、以後 半月間隔で葉面散布し、最後の仕上げは収穫7日前に。 ※状態により ネオゲン 等を葉面散布して 葉色を濃く調節します。 ※後半に 濃縮酵素液 を灌水すると、花首が太く直立します。



ミネラルバランスが採れているので健全な育成となり、大きな花を咲かせる事ができます。